

平成 26 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
一般	10	05	09	0402	教育普及活動事業	
総合計画	分野	人づくり				
	政策	3-5	芸術文化の振興			
	施策	3	文化財の保護と活用			
目的	博物館事業の教育普及活動					
対象	市民、児童・生徒、教師					
意図	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内小中学校の児童生徒に博物館での学習を通じて、ふるさとの歴史文化への興味と関心を深め郷土を愛する心を培う。</li> <li>体験型の学習や各種の講座により、博物館資料に対する興味を喚起し「動機づけ」を促し、花巻の歴史・文化に対する関心を強め、リピーターの養成を図る。</li> </ul>					
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること						
<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料収集活動事業</li> <li>○調査研究活動事業</li> <li>○教育普及事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・館長講話、博物館講座、体験学習・出前講座</li> <li>・博物館学校教育連携研究委員会（博・学連携研究会）の開催と「博・学連携だより」の発行。</li> </ul> </li> </ul>						
市民参画の有無 [ 対象外 ]						
市民協働の形態		共催		実行委員会・協議会		
		後援・協賛		補助・助成		
事業協力・協定		委託				
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位	区分	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(計画)
①	講座等開催回数	回	計画	31	20	
			実績	41	26	
②	体験学習	回	計画	17	16	
			実績	23	17	
③			計画			
			実績			
成果指標（上記「意図」に対応）		単位	区分	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(計画)
①	講座受講者数	人	目標	2,000	600	
			実績	1,672	775	
②	体験学習受講者数	人	目標	250	250	
			実績	311	380	
③			目標			
			実績			
成果指標の達成度	<input type="radio"/>	目標値より高い	概ね目標値どおり	目標値より低い		

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
<p>博学連携の推進により、市内の小中学校が博物館を利用した出前授業や体験学習を行うケースが増えた。</p>		
目的妥当性	公共関与の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="radio"/> 妥当である</li> <li><input type="checkbox"/> 見直し余地がある</li> <li><input type="checkbox"/> 妥当でない</li> </ul>
	成果の向上余地	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="radio"/> 向上余地がある</li> <li><input type="checkbox"/> 向上余地がない</li> </ul>
有効性	事業費・人件費の削減余地	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある</li> <li><input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある</li> <li><input type="radio"/> どちらも削減余地がない</li> </ul>
	受益と負担の適正化余地	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 受益機会の見直し余地がある</li> <li><input type="checkbox"/> 費用負担の見直し余地がある</li> <li><input type="radio"/> 適正である</li> </ul>
効率性		<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館と小・中学校との連携は、博物館学習に対する意欲の向上とともに、郷土の歴史・文化に対する興味関心を高めることにつながり、当事業の公開とは極め妥当である。</li> <li>・各種の講座・体験学習においても受講者のニーズにあった内容を考えるとともに、その充実を図っていく。</li> <li>・講座・体験学習とも地域の文化に則した内容であり、専門的知識を有した人員が必要である。</li> <li>・講座・体験学習とも基本的に受講、参加に制限はなく、費用についても材料費のみの負担である。</li> </ul>
公平性		
総合評価 …上記評価結果の総括		
<p>博物館と学校教育の連携の有効性について、学校現場で実際に授業に携わる教職員に、一定の理解が定着しつつある。教科書や副読本などで紹介される昔の生活の様子や、使われていた道具、戦争体験を語る資料などが博物館に収蔵されており、これらを活用することにより立体的な知識の構築を可能とし、子供たちの理解の促進や資料の新たな魅力の発見につながっている。固定化しつつあった体験学習メニューであるが、新たなメニューを追加することで、新規博物館利用者の掘り起こしに努めた。</p>		

平成 26 年度 事業説明資料

【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業J-ト	事業名
一般	10	05	09	0402	教育普及活動事業

単位：千円

		25年度 決算額(A)	26年度 決算額(B)	27年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費			1,687		1,687
財源内訳	国・県				
	地方債				
	その他		87		87
	一般財源		1,600		1,600

事業期間	<input checked="" type="radio"/> 単年度繰返	<input type="radio"/> 期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	--	----------------------------	-----------------

部経営方針における目標

地域の歴史や文化財、民俗芸能の保護と活用

事業開始の背景・経緯

博物館・資料館は、市民に郷土の歴史・文化を学び興味と関心の向上を図る機関として市民からの要望のもと建設された。展示内容をより理解しやすくするため毎年展覧会・各種講座及び体験学習を展開している。また、学校教育と博物館活動の連携を充実させるため、博物館連携事業を実施している。

事業概要

- 資料収集活動事業
- 調査研究活動事業
- 教育普及事業
  - ・館長講話、博物館講座、体験学習・出前講座
  - ・博物館学校教育連携研究委員会（博・学連携研究会）の開催と「博・学連携だより」の発行。

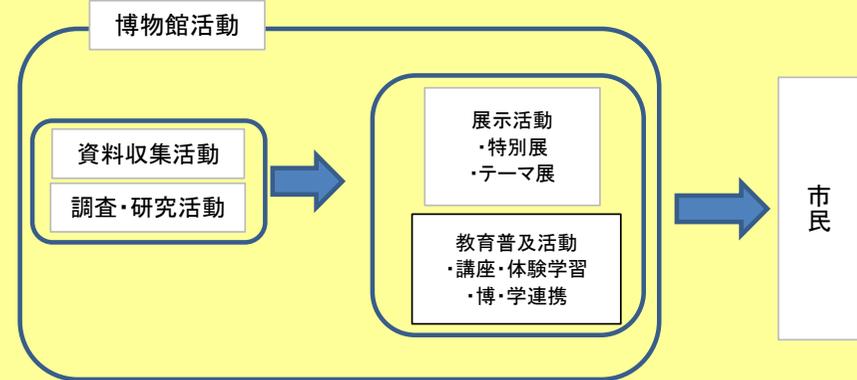
事業を展開する上での課題、留意事項 / 意見・要望等

学校授業のカリキュラムの中に、いかに博物館を利用した効果的な学習メニューを設定するか、教師の見極めが必要である。また授業の実施に当たっては、学校事情や地域性を考慮した教師と博物館学芸員双方の綿密な内容の検討を要する。講座・体験学習については、いずれも参加者からは好評であるが、よりニーズにあった講座・体験学習の検討と実施に努める。

担当部署 部名 教育部 課名 博物館 担当係長 小原克仁 内線 32-1030

(単位：千円)

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。  
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】



○教育普及活動事業 1,687千円

- ・館長講話6回 博物館講座等6回 古文書解説会4回 出前授業・講座10回 体験学習(勾玉づくり等)17回等 [歳入87千円(勾玉・琥珀玉)]